

インが断たれていないことが必要です。また、大きな被害が出た場合、被災されたかたの移動の手段、移動先での衣食住の確保など、私たちのグループのみでは解決できない問題も多く発生することが予想されます。そのため、透析医会との連携を強化し、行政に対しても透析医療を継続することの必要性を十分に理解してもらい、想定される被害から事前の準備をきちんと行ってもらえるように連絡を取り合っていくことが重要です。

（３）社会的な責任としての研究活動

借行会グループで透析治療をお受けいただいているかたは、約 3,000 名となっています。全国の透析患者さんが約 30 万人ですから、100 名にお一人は私たちのグループで透析をお受けになっていることとなります。

このように大きな規模の医療機関では、良質な医療を提供することはもちろんのことですが、臨床における研究活動を活発に行って、よりよい治療法の開発に貢献することも大事な社会的責務です。

グループ内での研究成果を学会などに発表することと同時に、他の研究機関や医療機関と連携をして、全国規模の研究に参加しています。このような研究活動については、名港共立クリニックの佐藤隆院長と、名古屋共立病院の春日弘毅副院長が中心となって、積極的に取り組んでおります。

治験や臨床研究を行っていく上では、透析をお受けになっている皆様のご協力を欠かすことができません。もし、皆様のところにこれらの研究活動への参加のお願いに伺った場合には、その研究の意義をご理解いただいた上で、積極的にご協力をいただきけるよう、お願い申し上げます。

（４）運動療法

透析をお受けになっているかたの高齢化は年ごとに加速をしております。中にはお歳を召してもとても元気に通院されているかたも、たくさんいらっしゃいますが、血液透析に通うことが困難になっているかたも、残念ながら少なくありません。

いつまでもお元気に通院していただけるように、透析中の運動療法の取り組みが始まっています。透析治療中の血圧の変化などがあり、すべての患者さんに参加していただけるわけではありませんが、ご自分の足で歩くことができるということは、とても大切なことです。透析中の運動療法に限らず、是非積極的にお体を動かすように心がけて下さい。

